

1 学校教育目標

- 思いやりのある子 よりよい生活を目指して相手を尊重し、助け合う子
- 考える子 様々な問題を解決するために、多様な考えをもてる子
- たくましい子 困難に直面してもあきらめず、より高い目標に向かって努力し続ける心と体をもつ子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力を身に付けられる学校 ○豊かな心を醸成できる学校 ○確かな学び、豊かな心を支える強く健やかな心と身体が育つ学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的、基本的な学力を身に付けた児童 ○進んで学習や運動に取り組む積極性をもった児童 ○思いやりの気持ちを持ち、人権を尊重する児童 ○学習、生活両面で発達段階に応じた「規範意識」をもった児童 ○進んで運動に親しみ、心身を鍛える健康な児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○教育に対して熱意あふれる教師 ○児童に対して愛あふれる教師 ○向上心をもって職務に取り組む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

児童数265名 11クラス 88周年の伝統校である。

【児童】思いやりのある、素直で明るい児童が多く、学習や諸活動においては真面目に取り組む。落ち着いた態度で学校生活を送っている。運動発表会や音楽発表会等の学校行事で目標に向かって努力することで達成感を味わい、積極的に課題に取り組み、自己肯定感が高まりつつある。区学力調査の通過率は、目標の80%以上を上回り85%という好結果であった。

【教職員】学校長の経営方針を受け、教職員は意欲的で前向きに取り組んでおり、組織内の役割を確実に果たそうと努力している。また、小中連携・年次研修・校内OJT・教科指導専門員の指導などにより研修を積んでいる。

【保護者、地域】親子三代卒業生の家庭も多く、保護者・地域とも学校に協力的である。保護者・地域・開かれた学校づくり協議会の方々との連携事業を継続するとともに質の向上を図っている。学力向上や様々な取り組みに、学校の成果を評価し期待感も高まっている。

2 前年度の成果と課題

重点的な取組事項－1 学力向上(基礎的・基本的事項の定着 思考力・判断力・表現力の育成)

- 数値目標 令和2年7月実施 区学力調査結果 通過率80%以上
 - 実施結果 令和2年7月結果 通過率85%
- 正答率は、国語80.6%、算数78.9%であった。通過率は、国語85.2% 算数84.8%であった。

通過率は、目標の80%を大きく上回ることができた。これは、学力向上の取り組み（朝学習の時間での短作文、音読・視写、計算、読書等の実施。金曜日6校時の梅一タイムでの文章読解を中心にした取り組み。算数の授業における1年生からの少人数指導や習熟度別指導。全学年で算数の単元テストにおいて目標値に到達しなかった児童を対象に放課後補習の実施。夏季休業中に10日間の補習（昨年度は未実施。）の成果であると考えられる。ただ、高学年で伸び悩みの傾向がある。低・中学年の高い通過率を高学年になっても維持し続けていくことが課題である。

重点的な取組事項－2 教師の授業力向上（小・中連携、校内OJT、巡回指導等）

○数値目標：校内OJT、巡回指導等による授業力向上 児童アンケート「授業が分かりやすい」90% 教員評価「授業力向上」90%

○実施結果：児童アンケート「授業が分かりやすい」91.6% 教員評価「授業力向上」100%

8回の小中連携（梅一・島根・十中）は、実施できなかった。今後も新型コロナウイルス感染防止により今までのように実施できないことが考えられる。コロナ禍でも実施できる小中連携を行う。

校内OJTは、年間20回実施した。教員が相互に学び合い、高め合う雰囲気が醸成された。

教科指導専門員による巡回指導は、若手教員や教職経験年数の少ない教員を中心に行った。着実に足立スタンダードに基づいた授業は定着した。今後も指導を授業改善に生かしていく。

重点的な取組事項－3 心身の健康推進（保護者・地域等との連携）

○数値目標：生活習慣の改善 体力向上 いじめの早期発見と適切な対応 不登校の対応 見逃しゼロへの取り組み 学校事故未然防止の達成率85～100%

○実施結果：概ね良好

生活面の児童アンケートでは、「挨拶」84.1%「言葉遣い」74.1%「早寝、早起き、朝ごはん」74.9%であった。また、体育では運動領域に制限のある中、92.3%の児童が「授業に楽しく取り組めた」と答え、87.1%の児童が体力向上を実感できた。特に投力では、講師を招聘しての「投げ方教室」を行い、児童はもちろん教員にとっても有意義な授業となった。投力、跳躍力、柔軟性などを高めるため体育の準備運動の時間などで継続して取り組んでいく。健康教育では、特に歯磨き指導等の成果として、7年連続して「東京都学校歯科保健優良校」を受賞した。

「いじめの早期発見と適切な対応、不登校の対応や見逃しゼロへの取り組み」は教員評価で「よくできた・できた」の達成率100%となった。また、学校事故の未然防止に向けて児童への安全指導、教員による安全点検を確実にやっていく。

保護者・地域との連携では、計画していた学校行事や授業公開がほとんどできなかった。規模の縮小や内容を制限した音楽発表会や運動発表会は行うことができ、子供たちは意欲的に取り組んだ。保護者や地域との連携あつての学校であることや学校行事が児童の成長に大きな役割を果たすことなどを改めて実感した一年であった。開かれた学校づくり協議会共催の芝生グリーンプロジェクト、親子ふれあい華道教室、漢字検定チャレンジ教室は実施することができた。これらは、児童にとって豊かな体験的活動となった。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上（基礎的・基本的事項の定着 思考力・判断力・表現力の育成）	○	○	○		
2	教師の授業力向上（小・中連携、校内OJT、巡回指導等）	○	○	○		
3	心身の健康推進（保護者・地域等との連携）	○	○	○		

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上（基礎的・基本的事項の定着 思考力・判断力・表現力の育成）							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学力向上（基礎的・基本的事項の定着 思考力・判断力・表現力の育成）		学力調査 80%	〃年度末 82%	学力調査 87.5%	〃年度末 85.7%	・目標を大きく上回った。引き続き学力向上に向けた取り組みを推進する。 ・学習の定着状況と具体的な取り組みは6(1)を参照。		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	梅一タイム	全児童 国語	毎週金曜日 6校時	・担任 ・文章力・読解力向上	文章問題テスト	文章問題テスト 正答率 80% が8割	達成目標はおおむねクリアできた。	・文章内容の理解に向けて今後も継続していくことで文章読解力の向上を図る。	○
2 継続	放課後補習教室	個別指導を要する児童 算数	放課後、週2回 平均	・全教員、地域ボランティア ・単元の学習内容の定着を図る。苦手な問題を中心に学習する。	時間内に行う問題の正答率	全問正解。 (間違いは直せば正答とする)	2月末まで29回実施した。 達成目標はおおむねクリアできた。	・個々の児童の苦手な領域の克服に有効であった。 ・日時を決めて全教員で取り組んだことで効果が上がった。	○
3 継続	夏季学習教室	個別指導を要する児童 算数	夏季休業中の 10日間	・全教員 ・苦手な問題を中心に学習する。	時間内に行う問題の正答率	全問正解。 (間違いは直せば正答とする)	7月は予定どおり実施した。(6日間)	・児童が苦手な問題を克服することができた。	○
4 新規	話し合い活動の充実	全児童 国語科を中心とし、教育活動全般	通年	・担任 ・話し合い活動により自分の考えを深める。	教員は授業中の観察や児童のノートなどから見とる。	教員の自己評価で考えが深まった児童 60%	「よくできた」と回答した教員50%であった。 児童アンケート「授業中、自分の考えや意見を発表した」64.3%	・「自分の考えや意見を発表した」と回答した児童は6割を超えたが、今後も互いに発表し合うことで考えを深める活動に重点を置く。	○

5 継続	思考力・判断力・表現力を伸ばす授業	全児童 国語 算数 社会 理科 を中心とし、教育活動全般	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・担任 ・知識・技能の活用を図る学習活動を月1回は取り入れる。 ・自分の考えを書く活動を週2回は行う。 ・主に国語で文章の要約を月1回行う。 	児童の作品やノートなどから見とる。	教員の自己評価で各活動の達成率80%	「よくできた」と回答した教員46% 「できた」と回答した教員46%であった。	・「よくできた」の回答が増えるように今後も児童の思考力・判断力・表現力を伸ばすため具体的な取り組みを継続していく。	○
6 継続	形成的評価のためのテスト	全児童 算数	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・担任 ・算数の授業の終わりにミニテストを行い、児童の定着度を把握する。 	授業時間内にミニテストを行う。	教員の自己評価で達成率80%	「よくできた」と回答した教員17% 「できた」と回答した教員67%	・ミニテストを行うことは意識されてきた。「よくできた」の回答を増やしたい。	○
7 新規	I C T 機器の活用研修	全児童 各教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、専科 ・I C T 機器の活用方法についての研修会を行う。 	教員自己評価 I C T 機器を授業で効果的に活用する。	教員の自己評価で達成率80%	「よくできた」「できた」と回答した教員100%	・I C T 機器の活用はほぼできた。今後はより効果的な活用方法の研修を行う。	◎
8 継続	漢字検定	受検希望 児童 国語	2月検 定日＋ 練習日 5回	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職、開かれの会担当者、保護者ボランティア等 ・漢字の読み書き能力の向上、漢字に対する興味・関心の醸成 	漢字検定	受験者全体の85%以上合格	78名が受検 合格率は89.5%	・コロナにより受検できなかった児童19名。	◎
9 継続	家庭学習	全児童 国語 算数等	毎日	<ul style="list-style-type: none"> ・担任 ・学習内容の定着と学習習慣をつける。宿題未提出者はその日のうちに学校で宿題を終了させる。 	児童アンケート	児童アンケート「家庭学習を忘れずにできた」85%	児童アンケート「家庭学習を忘れずにできた」84.6%	・目標はほぼ達成できた。忘れてしまう子へ繰り返し、粘り強く指導していくとともに家庭の協力を引き続き求める。	○

重点的な取組事項－2		教師の授業力向上（小・中連携、校内O J T、巡回指導等）		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
教師の授業力向上 （十中・島根小との連携の推進） （校内O J T、巡回指導等）	小中連携・OJTによる授業力向上90% 児童アンケート 「授業が分かりやすい」90%	<ul style="list-style-type: none"> ・教員評価「小中連携で授業力を向上させた」で「よくできた」「できた」と回答した教員94% ・児童アンケート「授業が分かりやすい」94.7% 	・目標は達成できた。今後も分かりやすい授業を求めていく。	◎

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教師の授業力向上	足立スタンダード100% 児童アンケート 「授業が分かりやすい」 90%	・足立スタンダードの徹底 ・学習規律の徹底 ・授業観察、巡回指導等 ・校内OJT	・教員評価「足立スタンダードを基にした授業」で「よくできた」「できた」の回答92% ・児童アンケート 「授業が分かりやすい」94.7%	・教科指導専門員の巡回指導が授業力向上に有効であった。	○
小中連携の推進	年間8回3校合同研究会 教員評価「小中連携による授業力向上」90%	・年間8回の合同研究会 ・十中教員による勉共会3回（児童向け）	・教員評価「小中連携による授業力向上」で「よくできた」「できた」と回答した教員94%	・合同研究会は他校の教員と意見交換でき有意義であった。勉共会はコロナ禍で未実施。	◎
区小研等学校外の研究会参加	区小研参加100% 区内外の研究会参加2回以上	・区小研参加 ・区内外の研究会参加 ・各種研修会参加	・教員評価 「区小研に毎回参加、区内外の研究会2回以上参加」で「よくできた」「できた」と回答した教員100%	・区小研参加はよくできた。コロナが収束したら区外や各種研修会にも積極的に参加する。	◎

重点的な取組事項－3		心身の健康推進（保護者・地域等との連携）			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
保護者・地域と連携し、健康で明るく生活できる児童の育成 健康教育・安全教育の推進を図り、安心・安全な学校づくり	生活習慣の確立・体力向上 いじめの早期発見と適切な対応、不登校の対応、見逃しゼロへの取り組み 学校事故未然防止	・教員評価 「いじめの早期発見と適切な対応、不登校の対応、見逃しゼロへの取り組み」で「よくできた・できた」と回答した教員100%	・「いじめや不登校対応、見逃しゼロ」は、概ね達成できた。児童の生活習慣は、引き続き指導を要する。	◎	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
道徳の時間の確保と質的改善 道徳教育の充実	教員評価 「道徳の授業で自分の考えをもつことができる児童」85%	・道徳授業の時数確保と改善 ・道徳授業地区公開講座 ・人権標語づくり ・ありがとうカード	・教員評価 「道徳の授業で自分の考えをもつことができる児童が85%以上となったか」で「よくできた」「できた」と回答した教員91%であった。	・今後も児童が自分の考えを積極的に発言し、意見交換からさらに考えを深めていく授業を目指す。	◎
学校図書館基本計画の実施	教員評価 「学年目標を達成できた」90%	・各学年の目標を設定し、達成を目指し、取り組む。	・教員評価 「よくできた」55%、「できた」36%であった。	・休校期間があったが、おおむね達成できた。	◎

体力向上	児童アンケート 「体育の授業に楽しく取り組めた」90% 「体力が向上した」85%	<ul style="list-style-type: none"> ・体育授業の改善 ・投力・跳躍力・柔軟性を高める取り組み ・学習カードの活用 ・beyond2020 マイベストプログラムの活用 ・業間運動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート 「体育の授業に楽しく取り組めた」91.3% 「体力が向上した」82.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動制限がある中での体育の授業ではあったが、児童は意欲的に取り組むことができた。 ・体力向上を実感できた児童はやや少なくなった。 ・水泳の授業が実施でき児童は喜んでいった。 	○
生活リズムの定着	児童アンケート 「早寝・早起き・朝ご飯」 「あいさつ」「ていねいな言葉づかい」80%	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携した生活リズムの定着 ・生活リズムカードの活用年間3回 ・食育の指導 ・あいさつの指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート ① 早寝・早起き・朝ご飯 79.7% ② あいさつ 86.5% ③ ていねいな言葉づかい 77.8% あいさつ以外は目標に今一步届かなかった。引き続き家庭の協力を求め、数値向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ当番は、飛沫拡散防止のため実施できなかった。 ・時と場に応じた言葉づかいができるようにしていく。 ・家庭への協力を求める。 	○
安心・安全な学校生活の推進	教員評価 「いじめの早期発見と適切な対応、不登校の対応、見逃しゼロへの取り組み」100%	<ul style="list-style-type: none"> ・常に児童の様子に注意する。 ・問題には即対応する ・アンケートの丁寧な聞き取り ・SOSの出し方教室の開催 ・安全指導の完全実施 ・安全点検の完全実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員評価 「よくできた」75%、「できた」25%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめなどの問題行動は、早期発見・対応が重要である。教員の見逃しゼロの取り組みにより、大きなトラブルは起きていない。 	◎
保護者・地域との連携	教員評価 「保護者・地域との連携」90%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加（祭礼・清掃活動等） ・開かれた学校づくり協議会との連携事業 ・地域講師の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員評価 「よくできた」64%、「できた」36%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「親子ふれあい華道教室」「親子盆踊り体験」「漢字検定チャレンジ教室」「書道教室」は実施できた。ただ、児童が楽しみにしていた行事が中止となったものも多かった。 	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

足立区学力調査の通過率は目標の80%を大きく上回る87.5%であった。これは、学力向上アクションプランの取り組みの成果であると考えられるが、課題もある。課題と対策は次のとおりである。

【課題】・国語の単元別正答率では、説明的な文章及び文学的な文章の内容や心情の理解に課題がある。漢字の書き取りも高学年になるにつれ正答率が芳しくなかった。算数での単元別正答率では、学年により課題が異なるが、図形・体積・式による表現・計算が挙げられる。

・6年生国語においては、通過率が73.8%であり、学習の定着状況に課題がある。特に、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする力についての習熟度が低い。

【対策】・国語では発問に対して自分の考えを書く活動に重点を置く。そして、児童が互いの考えを発表し合うことで自分の考えを深められる授業を展開する（今年度の児童アンケートで「自分の考えや意見を発表した」は64.3%であり、今一步であった）。また、金曜日6校時を梅一タイムとして全学年で文章問題テストに取り組み、読解力向上を図る。

・6年生国語では、授業で要点を的確に捉えて読み取ったり、段落相互の関係に注意して文章全体の構成を捉えたりする指導を行う。また、単元ごとに読み取ったことを要約する時間を設定し、書くことに慣れさせていく。補習学習では、物語文・説明文の読解に重点的に取りこませる。さらに個別指導により文章の内容を正確に読み取れるよう叙述や接続語等に線を引くよう指導し、確実に読解できるようにする。

・算数では、毎時間の授業の終末にミニテストを行うことに重点を置く（今年度の教員自己評価で「授業時間内にミニテストを行う」ができた教員は約8割であった）。このテストにより教員は個々の児童の学習内容の定着度を把握し、必要に応じて個別指導を行う。また、単元のまとめのテストで目標値に到達しなかった児童を対象に放課後補習教室を行い、全教職員で指導にあたる。さらに夏季休業前に東京ベーシックドリルに取りこませ、個々の児童の苦手な領域を把握し、夏季学習教室（サマースクール）で指導する（今年度は7月のみ6日間実施）。

【2月の到達度確認テスト】学校全体の通過率は85.7%であった。6年生国語の通過率は79.1%となり、大きく向上した。

【その他 ICT機器の活用】ICT機器については、授業で積極的に活用する。今年度は、全教職員が週1回はICT機器を授業で活用することになった。次年度は、より効果的に活用していくため、ICT機器の活用方法の研修会を計画的に行うとともに実際に活用している教員の授業を参観して学び合っていく。

（2）保護者や地域へのメッセージ

保護者の皆様、地域の皆様には、日頃より本校の教育活動に御協力・御支援いただき心より感謝申し上げます。本校の子供たちは、生活指導上のトラブルがほとんどありません。授業中の態度もよく集中して学習に取り組んでいます。また、学校行事などでは自分の目標をもち、それに向かって一生懸命取り組みます。これらのことは、ひとえに学校に対する家庭や地域の皆様の御協力の賜です。今後も引き続き子供たちの健全育成に向けて、「早寝・早起き・朝ご飯」や「家庭学習の取り組み」、「親子読書」等への御協力をお願いいたします。

（3）その他（学校教育活動全般について）

開かれた学校づくり協議会や保護者の皆様、地域の皆様の御協力のもと、芝生グリーンプロジェクト、親子ふれあい華道教室、親子盆踊り体験、漢字検定チャレンジ教室などを実施することができました。これらの豊かな体験的活動により子供たちの心の成長が図られています。深く感謝申し上げます。次年度は、今年度中止となった芝生の上の映画会が実施できることを切に願います。今後も開かれた学校づくり協議会の皆様や保護者の皆様、地域の皆様の温かな御協力・御支援をよろしくお願いいたします。